イスタンブルのユダヤ・スペイン語の現在分詞構文

吉田浩美

(On the Present Participle Constructions of Judeo-Spanish Spoken in Istanbul)
Hiromi YOSHIDA

(pp. 221-239)

Contribution to the Studies for Eurasian Languages series vol.15

『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』
Native and Loan in Turkic Languages

九州大学人文科学研究院言語学研究室 Department of Linguistics, Graduate School of Kyushu University／ユーラシア言語研究コンソーシアム The Consortium for Studies of Eurasian Languages
2009 March
ISBN 978-4-903875-18-7

イスタンブルのユダヤ・スペイン語の現在分詞構文

吉田　浩美
(早稲田大学)

1. はじめに

本論考では，トルコ共和国イスタンブルのユダヤ・スペイン語[1]に見られる「現在分詞構文」を扱う。現在分詞構文とは，現在分詞句の前あるいは後ろに「定形動詞を含む文」あるいは「なんらかの句」を伴う構造を指すものとする。現在分詞句のみが単独で用いられることもあるが，そのような用例も分析の対象とする。「現在分詞句」とは，「定形動詞を含まず，動詞の現在分詞を含み，副詞的に用いられる句」を指すこととする。ユダヤ・スペイン語には，現在分詞がその直前に，①*en* を伴う構造，②*en* を伴わない構造，③*tódo en* を伴う構造，がある。現代カスティリャ語[2]では *en* を伴う構造および *tódo en* を伴う構造は使われていないと言ってよい。本論考の目的はユダヤ・スペイン語のこの三つの構造がどのように使い分けられているかを探ることである。なお，現在分詞構文は，どちらかというと書き言葉において多く使われるものである。

2. 調査とデータについて

本論考で使用するデータは，2006 年 8 月 22 日～同年同月 28 日，2007 年 2 月 19 日～同年同月 22 日に筆者がイスタンブルで行なった調査[3]で得たものである。

---

[1] ユダヤ・スペイン語は，ラディノ (Ladino)，ジュデズモ (Judezmo) の名でも知られる。その話者はトルコ，イスラエルを始め世界各地にいるが，イスタンブルの話者は Judeo-espanyol / Djudeo-espanyol と呼ぶことが多いので，本論考ではその日本語訳である「ユダヤ・スペイン語」という名称を採用する。また，以下，「イスタンブルのユダヤ・スペイン語」を単に「ユダヤ・スペイン語」と記す。

[2] 「現代カスティリャ語」とは現代のスペインで標準的とされているスペイン語を指すこととする。

[3] この2度の調査は,科研費補助金(基盤A)「チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究」(研究代表者:久保智之(九州大学),課題番号:18251007) によって実現した。

調査に協力頂いたのは，1933 年生まれの女性と 1937 年生まれの女性である。二人ともイスタンブル出身・在住であり，ユダヤ・スペイン語，トルコ語のほか，フランス語，英語などにも堪能である。一人は「母語はユダヤ・スペイン語とフランス語の両方，教育言語は英語」，一人は「母語はユダヤ・スペイン語，教育言語はフランス語」である。

今回データとして用いる用例は，イスタンブルで発行されているユダヤ・スペイン語の月刊新聞 *El Amaneser* に 2005 年 3 月から 2007 年 2 月までに 1933 年生まれの調査協力者の方が執筆された文章から筆者が集めたもの，および筆者の作例を二人の調査協力者の方に言い直して頂いたものである。用例に関するコメントは二人から頂いている。調査期間が短いこともあり，得られた用例は 67 例のみである。

3. 表記について

ユダヤ・スペイン語には数種類の正書法があるが，本論考では音素表記を用いる。音素目録は次のとおり：i, e, a, o, u；b, d, g；p, t, k；f, v=[v]； m, n, ñ=[ɲ]；s, z=[z], sh=[ʃ], j=[ʒ～dʒ], ch=[tʃ]；l, r=[ʀ～ʁ～χ～ɾ～r]；y=[j]；h=[h]。

特筆すべき点を次に掲げる。

▸子音前鼻音はすべて n で表記する。

▸正書法では j [ʒ] と dj [dʒ] を使い分けているが，今回の調査協力者の発音においては，語頭，鼻音 (n) の後では破擦音，母音間と語末では摩擦音とほぼ相補分布を示しているので，音素としては一つのものとみなせる。

▸語中の r と rr も正書法では使い分けられているが，今回の調査協力者の発音においては，一人は正書法による語頭の r，語中の r と rr は弱い [ʀ]か [ʁ]（あるいはこれらの無声化したもの），語末の r は [χ] が聞かれることが多い。もう一人はまれに [r] が出ることがあるが，それは現代スペイン語を意識した場合のようであり，おおむね r も rr も弱い [ʀ] か [ʁ] か [ɾ] で発音されるようである。すなわち，正書法では r と rr を書き分けることになっていても，音価の区別は存在しないと考えられる。

▸語末の s と sh は，後ろに有声音，とくに母音が続くときには顕著に有声化する。s で終る語に複数形語尾の -es が付く場合はほぼ例外なく s が有声化するが，この複数語尾が付いたために有声化した s は z で表記する。

▸アクセントは現代カスティリャ語のものとほとんど同じである。用例では，2 音節以上のすべての語にアクセント符号を付す。

▸用例中のグロスは可能な限り簡略化して付す。単数・複数の別，法・時制の別などは，各語・形態素ごとに付した訳語から自明な場合はとくに記さない。形態素境界をハイフンで示している場合もある。用例中に出てくる略号は次のとおり：Dat＝与格，Fem＝女性形，Ref＝再帰代名詞，Past＝過去形，pl＝複数形。

4. ユダヤ・スペイン語の現在分詞構文

4.1. ユダヤ・スペイン語の現在分詞

ユダヤ・スペイン語では，不定形が *-ar* に終わる動詞の現在分詞は *-ando* に終り，同じく *-er*，*-ir* に終わる動詞の現在分詞は *-iendo* に終わる。これは現代カスティリャ語と同様である。

【例】 *meldár*「読む」 → ***meldándo***
komér「食べる」 → ***komiéndo***
dizír「言う」 → ***diziéndo***

4.2. ユダヤ・スペイン語の現在分詞句

既述の通り，現在分詞句は単独で用いられることもあるが，たいていは定形動詞を含む文，あるいはなんらかの句とともに用いられる。現在分詞句とともに現れる「定形動詞を含む文」や「なんらかの句」を，本論考では便宜上まとめて「主節」と呼ぶこととする。現在分詞句と主節が並ぶ順番は様々で，現在分詞句が先行することもあれば，後ろに置かれることもあり，さらに主節の途中に挿入されることもある。また，現在分詞句は主節全体に意味的にかかるとは限らず，主節のなかの一つの語や一部の句にかかる場合もある（例は後出）。

ユダヤ・スペイン語の現在分詞句の構造は次のとおりである（用例では現在分詞句の部分に下線を施し，「現在分詞」，「*en*＋現在分詞」，「*todo en*＋現在分詞」の部分をボールドで示す）。まず「*en*＋現在分詞」と，「*en* を伴わない現在分詞」の実例を掲げる：

(1) ***en eskriviéndo*** *la kárta, akodrí de úna kóza.*
EN writing the letter I remembered of one thing

(2) ***eskriviéndo*** *la kárta, akodrí de úna kóza.*
writing the letter

(1), (2) に共通の *eskriviéndo* は動詞 *eskrivír*「書く」の現在分詞である。(1) の *en eskriviéndo la kárta*, (2) の *eskriviéndo la kárta* の部分が現在分詞句であり，(1) では現在分詞の直前に *en*[4] が置かれている。本論考では便宜的に *en* を伴う方を「en 付き構文」，*en* を伴わない方を「en なし構文」と呼ぶこととする。

調査協力者は二人とも，(1) と (2) の間には意味的差異はなく，いずれも「手紙を書いているとき（書きながら），私はあることを思い出した」あるいは「手紙を書いたとき（手紙を書き終わって），私はあることを思い出した」，また「私は手紙を書いたことによってあることを思い出した」という解釈ができると言う。すなわち，現在分詞句の部分は，継続している動作・行為を表しているとも，完了した動作・行為を表しているとも解釈できる。「手紙を書いたことによって」というのはアスペクトから離れた別の解釈であるが，「手紙を書く」ことが先で，それに引き続き「思い出す」という事態が実現しているということで現在分詞句の部分は「完了した事態」を表していると言える。このように，どのような解釈になるかは文脈によるほかない。しかし，どの解釈であっても「非常に近接して実現する二つの事態」を現在分詞句と主節で表すということは共通していると言える。さらに，一人の調査協力者は，en なし構文は「現代カスティリャ語が多少なりともできる人が使う表現」であり，「ユダヤ・スペイン語では en 付きがふつうである」と言う。このように話者にとっては大きな差のない表現であり，現代カスティリャ語の影響があるとすれば揺れている表現とも考えられる。しかし，用例を検証すると，なんらかの使い分けが少なくとも「傾向」として存在するように思われる。

次は，現在分詞が直前に *tódo en*[5] を伴う構造の例：

---

[4] *en* は，ほかに *en septénbre*「9 月に」（*septénbre*＝9 月），*en el internét*「インターネット上で／に」（*el*＝定冠詞男性単数），*en káza*「家で／に」（*káza*＝家），*en judéo-español*「ユダヤ・スペイン語で／において」などのように用いられ，一般的に前置詞とされる。これらの *en* と，本論考の *en* 付き構文や *tódo en* を伴う構文における *en* が共時的に同じものであるか，同音異義であるかの問題には今回は立ち入らない。

[5] *tódo* は，代名詞として「すべて（のもの・こと）」という意味で用いられたり，また，限定詞付きの名詞を修飾して *tóda mi vída*「私の全人生」（*mi*＝私の，*vída*＝人生），*tódo el tiénpo*「常に」（*tiénpo*＝時間）などのようにも使われるが，前者では女性名詞 *vída* に呼応して *tóda* という女性形になっている。後者は，*tódo el tiénpo* という句全体として副詞のように用いられる。ほかにもいくつかの用法があるが，これらの各 *tódo* と本論考での todo en 構文における *tódo* が共時的に同じものであるか，同音異義であるかの問題にも今回は立ち入らないこととする。

(3) ***tódo*** ***en*** ***konosiéndo*** *ótras* *línguas,*
TODO EN knowing other:pl languages

núnka *deshímos* *de* *avlár* *el* *judéo-españól.*
never we quit:Past of to speak the Judeo-Spanish
「私たちは他の複数の言語ができる一方で，ユダヤ・スペイン語を話すのをやめることは決してなかった」

この *tódo en* を伴う現在分詞句の意味については，調査協力者の説明ははっきりしており，「～した後で」との解釈はなく，「～している間」あるいは「～している一方で」という解釈が普通であると言う。この構造を本論考では「todo en 構文」と呼ぶこととする。

4.3. en 付き構文

この構文の用例は 26 例収集できた。現在分詞として現れる動詞は次のとおり：

afirmár「確信する，確認する」，*akodrárse*[6]「思い出す」，*aserkár*「近づく」，*azér*「行う」，*azérse*「なる」，*chuflár*「ヒューッと鳴る」，*dezayunár*「朝食をとる」，*deskorajár*「がっかりさせる」，*enpleár*「使う」，*eskrivír*「書く」，*kontinuár*「継続する」（用例では「歩き続ける」という状況を述べている），*korér*「走る」，*kuvrír*「覆う」，*lavár*「洗濯する」，*lavorár*「働く」，*mirár*「見る（注視する）」，*meldár*「読む」，*parír*「出産する」，*respektár*「尊重する」，*sostenér*「保持する」，*terminár*「終える」（用例では「書き終わる」という状況を述べている），*ver*「見る」，*yamár*「（～を～と）呼ぶ」，*yorár*「泣く」。

(4)～(11) の例は，文脈から，現在分詞句の部分が進行中・継続中の事態を表わしていると解釈できるもので，構文全体として「ある進行中・継続中の事態のなかで，別の事態が実現する」ことを表すものである。現在分詞句が「ある進行中・継続中の事態」を表し，「そのなかで実現する別の事態」は主節で表されている。また，どちらの事態が先に始まったのかを問題にしているわけではない。

---

[6] ユダヤ・スペイン語でも現代カスティリャ語と同様，常に再帰代名詞とともに用いられる動詞の不定形は，*-ar*，*-er*，*-ir* のあとにさらに *-se* を付した形である。

(4) ***en eskriviéndo*** *éste parágrafo, me estó sonriéndo.*
EN writing this paragraph Ref:1sg I am smiling
「このパラグラフを書きながら，私は微笑んでいます」

(5) ***en yorándo****, la mujér kontó tóda su vída.*
EN crying the woman she told all her life
「その女性は泣きながら彼女の人生を語った」

(6) ***en dezayunándo****, mi pádre mélda la gazéta.*
EN having breakfast my father he reads the newspaper
「私の父は朝食をとりながら新聞を読む」

(7) *no déves de komér* ***en mirándo*** *la televizión.*
not you must to eat EN watching the television
「君はテレビを見ながら食事してはいけない」

(8) は，幼少時の思い出を語るエッセイの終りの部分に書かれている文。「（このエッセイを）締めくくるにあたり，両親について再び語ろうと思う」ということを言っている：

(8) ***en terminándo****, kéro tornár a mis jenitóres.*
EN finishing I want to go back to my parents
「（この文章を書き）終えるにあたり，私は両親のところへ戻ろう（話を戻そう）と思う」

(9) *me echí enbásho,* ***en kuvriéndo*** *mi íjo.*
Ref:1sg I laid downward EN covering my son
「私は息子（の体）を覆いつつ身を伏せた」

(10) ***en aserkándo*** *el nasimiénto mío,*
EN approaching the birth my

mi mádre se kedó en estánbol, ánde su tíya.
my mother Ref:3sg she remained in Istanbul where her aunt
「私の誕生が近づいており，母はイスタンブルの自分のおばの

ところに残った」

(11) では，現在分詞句は主節全体ではなく先行する名詞 *muerte* にかかっていると解釈できる。

(11) *el kedó bívdo después de la muérte de su mujér,*
he remained widower after of the death of his wife

en pariéndo *su sejéna kreatúra.*
EN delivering their sixth child
「彼は，妻が 6 番目の子供を出産中に亡くなり，やもめになった」

(12)〜(15) の用例は，主節が表す事態が実現するための「方法・手段」を現在分詞句が表す事態が表しているように解釈できるものであるが，これらも，アスペクト的観点からは現在分詞句が表す事態のなかで主節が表す事態が実現するものであると言える。

(12) は，*"kómo se puéde alkansár a éste búto?"*「どうやったらこのゴールに辿り着くことができますか」（どうしたら 1 日 24 時間という限られた時間を「足りない」と思わずにすむか，ということを言っている）という，「方法・手段」を尋ねる質問に対する応答であり，現在分詞句のみが現れている。

(12) *naturálmente,* ***en enpleándo*** *kon ekonomía las óras i*
naturally EN using with economy the hours and

afilú los púntos.
even the minutes
「当然，時間を分単位までも経済的に使うことによってです」

(13) *nos fasilítan la vída de káda día,*
us they make easier the life of each day

en aziéndo *múi frekuénte los mízmos jéstos o áktos.*
EN doing very frequently the same gestures or acts
「同じ行為を頻繁に行うことで（それらは）私たちの日々の生活をより簡単なものにしてくれる」(同じことを習慣的に繰り返し行うこ

とにより何でも楽にできるようになる，ということ。）

(14) *ái* *un* *jenéro,* *ke* *se* *siénten* *konténtes*
there is a kind that Ref:3pl they feel happy:pl

en ***deskorajándo*** *el de enfrénte.*
EN discouraging he of front
「目の前にいる人を落胆させて喜びを感じる人がいる」

次の例は，「アーティチョークは高価で買えないので，より安価なズッキーニの皮をアーティチョークのつもりで食べる」という状況である：

(15) *se* *engañáron* *kon* *kashkarikas* *de* *kalavása*
Ref:3pl they deceived with peels of zucchini

en ***yamándo-las***[7] *enjinaríkas.*
EN calling-them:Fem artichokes
「彼らは，ズッキーニの皮をアーティチョークだと言って自らをごまかした」

以上の用例から，en 付き構文については少なくとも次のことが言える：
[i] 現在分詞として現れる動詞は，物理的であれ，精神的・心理的であれ，何らかの「動作，行為，活動」を表す動詞がほとんどである。
[ii] 現在分詞句が表す事態のなかで主節が表す事態が実現することを表している。現在分詞が表す事態の duration は様々であるが，おおむね「現在分詞句が表す事態の duration」≧「主節が表す事態の duration」であることが表されている。二つの事態の duration が同じであ（ると見なせ）れば，二つの事態は同時進行するものと解釈される。

4.4. en なし構文

(16)〜(21) の用例では，「現在分詞句が表す事態」と「主節が表す事態」が実現する順番が比較的はっきりしている。現在分詞として現れる動詞は

[7] ユダヤ・スペイン語においても現代カスティリャ語においても，動詞の現在分詞や不定形が与格・対格の代名詞をとるときは，正書法では現在分詞に代名詞を接尾して 1 語のように記す。その是非についてはここでは触れないが，本論考では正書法のやり方に準ずることとし，形態素境界を表すハイフンを記す。

次のとおり：*ajustár*「付け加える」，*asegurár*「保証する」，*avizár*「知らせる」，*azér*「形成する」，*bevér*「飲む」，*dar*「与える」，*deshár*「残す」，*entrár*「入る」，*eskapár*「終える」，*eskrivír*「書く」，*evitár*「回避する」，*metér*「置く」，*pasár*「通る」，*profitár*「利用する」，*saltár*「飛び降りる」，*savér*「（あることがらを）知る」，*supozár*「推測する」，*ver*「見る」。

(16)，(17) は「現在分詞句＋主節」の順で置かれ，「現在分詞句が表す事態」に引き続き「主節が表す事態」が実現することを表す例：

(16) ***viéndo*** *ke la máno mía i la kára de mi kriatúra*
seeing that the hand my and the face of my child

kedáron ariénto la sángre, enpesí a gritár.
remained in the blood I began to cry
「私の手と私の子供の顔が血まみれなのを見て，私は叫び始めた」

次の例では現在分詞 *eskapándo*（< *eskapár*「終える」）が現れているが，*en terminándo*（< *terminár*「終える」）が現れる例 (8) と比べられたい：

(17) ***eskapándo*** *de subír-las, la sigúnda kaléja*
finishing of to climb-them:Fem the second street

a la derécha es felék sokák.
to the right is *F.* street
「それら（注：*las eskaléras*「階段」(pl.Fem) を指す）を上り終わると，右側の 2 番目の通りはフェレク通りです」

(18)，(19) は「主節＋現在分詞句」の順で置かれ，「主節が表す事態」に引き続き「現在分詞句が表す事態」が実現する。

(18) *el patrón mío pagó mi dásio,*
the boss my paid my tax

evitándo-me *ansí de ír-me a áshkale.*
avoiding-me thus of go-me to *A.*
「私の雇い主が私の税を払ってくれ，私はアシュカレへ行かずにすんだ」

(19) *la niña káda día vizitáva su tónba,*
the girl each day she was visiting her tomb

metiéndo *flóres i yorándo.*
putting flowers and crying
「女の子は毎日彼女のお墓を訪ね，花を飾り，泣いた」

(20) は「主節＋現在分詞句」の順で置かれ，「現在分詞句が表す事態」に引き続き「主節が表す事態」が実現することを表す：

(20) *no me púde afilú gustár,*
not me could even to like

viéndo *al malór de tántos konosídos.*
seeing to the misfortune of so many acquaintances
「多くの知り合いの窮状を見ると，私は喜べなかった」

(21) は「現在分詞句＋主節」の順で置かれ，「主節が表す事態」に引き続き「現在分詞句が表す事態」が実現すると解釈できる：

(21) ***ajustándo*** *a ésta siñifikánte dícha,*
adding to this significant saying

vos kéro prezentár dos ótras de mézma siñifikasión.
to you:pl I want to introduce two others of same meaning
「この意味深長なことばに加えて，私はあなた方にもう二つ，同じ意味のことばを紹介したい／私はあなた方にもう二つ，同じ意味のことばを紹介したいのでこの意味深長なことばに追加する」

このように，現在分詞句と主節が置かれる順番と文の意味との関係はというと，先に置かれた方が表す事態が先に実現することを表すわけではい。

(22)〜(26) は，en 付き構文で見た用例と同様，「現在分詞句の表す事態の duration が長く，そのなかで主節の表す事態が実現する」と解釈できる場合である。収集できた 11 例中 7 例において現在分詞句には *ser*（ほぼ英語の be 動詞に相当する動詞）の現在分詞（*siéndo*）が現れている（例 22, 23）。

ほかに，*durmír*「眠る」，*kerér*「～したい」，*konosér*「（人を）知っている」（例 24），*tenér*「持つ」（例 25），*formár*「構成している」（例 26）がそれぞれ 1 例ずつある。このように en 付き構文との大きな違いは，現在分詞として，「活動，動作，行為」というよりは「（恒常的な）状態」を表す動詞，すなわち，そもそも一定の duration が想定される意味を持つ動詞が現れるという点である。

(22) *no téngo entisión de tokár a éste aspékto,*
not I have intension of to touch to this aspect

no ***siéndo*** *úna otoridád en el doméno.*
not being one authority in the domain
「私はその分野の権威ではないので，この問題に触れるつもりはない」

また，*siéndo* が現れる 7 例のうち 5 例で，*siéndo* のあとに名詞節を導く接続詞 *ke*（ほぼ英語の接続詞 *that* に相当するもの）が続き，そのあとに名詞節が続く，という形になっている：

(23) *naturálmente, mis jenitóres devían tenér*
naturally my:pl parents they must:Past to have

problémas, ***siéndo*** *ke éramos tres kreatúras.*
problems being that we were three children
「私たち 3 人の子供をかかえていて（lit:私たちは 3 人の子供であり），当然私の両親は問題を抱えていたにちがいない」

(24) は，結婚の仲立ちを趣味のようにしている婦人たちについて語ったもので，現在分詞として現れる *konosér* は「人を知っている」ことを意味する：

(24) *éstas dámas,* ***konosiéndo*** *las dos famílias,*
these ladies knowing the two families

reúshen a aranjár un randevú.
they succeed to to arrange a appointment
「これらの婦人たちは，二つの家族を知っていて，（双方が）

会う約束をとりつけることができる」

(25) ***teniéndo*** *la posivilidád de tratár de kualkiér sujéto,*
having the posibility of to treat of whatever subject

la prénsa sefardí, en despárte de su eskópo informatívo,
the press sephardi in separation of its aim informative

tiéne tanbién la misión de despertár al interés
it has also the mission of to arouse to the interest

de un públiko entéramente indiferénte envérso su idióma étniko.
of a public entirely indifferent about its language ethnic
「セファルディの新聞は，どのようなテーマでも扱う可能性を持っているが，その報道という目的とは別に，自らの民族の言語にまったく無関心な人たちの興味を呼び起こすという使命をも持っている」

(26) *se instaláron,* ***formándo*** *grúpos asigún las sivdádes*
Ref:3pl they settled forming groups according to the cities

o rejiónes ánde moráron en espáña.
or regions where they lived in Spain
「彼らは，スペインにいたときに住んでいた都市や地域に基づいてグループを作り定住した」

このように，en 付き構文同様，en なし構文も「現在分詞句が表す事態のなかで主節の表す事態が実現する」ことを表わしているが，en 付き構文との違いは，現在分詞になっている動詞が「(恒常的な) 状態」を表すものである，という点である。また，*siéndo ke* ～ の形が出てくる例が半分近くを占めるのも特徴であると言える。

以上の用例から，次のようなことが言える：

[i] (16) ～ (21) においては，現在分詞句が表す事態は「点的」であり，現在分詞句が表す事態と主節が表す事態の起こる順番が比較的はっきりしているように解釈できるものだが，二つの事態が「時間的に非常に近接して起こる」という点では先に見た例と同様である。

[ii] (22) ～ (26) に現れている現在分詞句は，*ser*「～である（英語の be に

相当)」, *konosér*「知っている」, *tenér*「持っている」, *formár*「構成している」など「状態」を表す動詞を含み，現在分詞句が表す事態のなかで主節が表す事態が実現する，というもので，二つの事態の duration により，同時進行と解釈できる場合もある。

しかし次のような問題点が残る：次の 2 つの例でも，現在分詞句が表す事態と主節が表す事態がほぼ同時進行であることを表しているが，現在分詞となっている動詞は「（恒常的な）状態」でなく「動作，行為，活動」を表すものである。したがって，en 付き構文で言ってもよさそうなものであるが，en 付き構文で言えるのか，言える場合はどちらがより適切か，については未確認である：

(27) *pasímos úna ermóza nocháda,*
we passed a beautiful night

avlándo, kontándo *de akí, de ayá.*
talking telling of here of there
「私たちは，あれこれ語り合って楽しい夜を過ごした」

(28)では，現在分詞句は主節全体ではなく，*sonreir-se* にかかる：

(28) *es, mas o ménos, el egzersísio ke konsíste a*
it is more or less the exercise that it konsists to

sonreír-se enfrénte el espéjo,
to smile-oneself in front of the mirror

pensándo *kózas ermózas.*
thinking things beautiful:pl
「それは，おおざっぱにいうと，鏡の前で楽しいことを考えてにっこり笑う（にっこり笑って楽しいことを考える）ということから成るエクササイズである」

ほかに，慣用句化，語彙化しているのでは，と考えられる用例もある。(29) の現在分詞句 *avlándo de*～ は「～と言えば」の意で，よく使われる表現である。

(29) ***avlándo*** *de prímos,* *me* *akodró* *ke*
speaking of cousins Ref:1sg I remembered that

tomáva *yo* *kalém* *i* *papél,*
I was taking I pencil and paper

pára *azér* *el* *heshbón* *de* *prímos.*
for to do the calculation of cousins
「いとこと言えば，私は鉛筆と紙を持ってきてはいとこの数を数えたものだった」

(30) の現在分詞 *konsernándo* は「～に関して」の意だが，Perahya & al.(1997) には，この現在分詞形から予想される不定形 **konsernár* は載っておらず，*konsernándo* の形が見出し語として載っている。

(30) ***konsernándo*** *la publikasión del shalóm....*
concerning the publication of the *S.*

dezéo *dár-vos* *siértos* *detálios.*
I wish to give-you:pl:Dat certain:pl details
「シャローム（ユダヤ系新聞の名）の出版に関して，・・・私はいくつか詳細な事項をみなさんに示したいと思います」

4.5. todo en 構文

この構文の用例は 5 例のみ収集できた。現在分詞として現れる動詞は，*konosér*「(言語が) できる」，*lavorár*「働く」，*sintír*「感じる」，*tomár*「とる」，*tenér*「持つ」である。

(31＝3) ***tódo*** ***en*** ***konosiéndo*** *ótras* *línguas,*
TODO EN knowing other:pl languages

múnka *deshímos* *de avlár* *el* *judéo-español.*
never we quit:Past of to speak the Judeo-Spanish
「私たちは他の複数の言語ができる一方で，ユダヤ・スペイン語を話すのをやめることは決してなかった」

(32) ***tódo en lavorándo**, no mankávan de azér konversasiónes.*
TODO EN working not they lacked of to do conversations
「仕事をしながらも，彼らのおしゃべりが滞ることはなかった」

次の例はギリシャのユダヤ・スペイン語について語ったもの。

(33) *éra el español del kínzen síglo,*
it was the Spanish of the 15th century

***tódo en tomándo** kon tiénpo,*
TODO EN taking with time

siértas ekspresiónes grégas, ebréas i túrkas.
certain:pl expressions Greek:pl Hebrew:pl and Turkish:pl
「それは 15 世紀のスペイン語で，長年にわたりギリシャ語，ヘブライ語，トルコ語の表現を取り入れていった／長年にわたりギリシャ語，ヘブライ語，トルコ語の表現を取り入れていった一方で，それは 15 世紀のスペイン語だった」

(34) *Los eskritóres son entéramente líbres*
the:pl writers are entirely free:pl

*en sus formulasión **tódo en teniéndo** el kúdio*
in their formulation TODO EN having the care

de los interéses komunitários.
of the:pl interests common:pl
「書き手たちは，共同の利益に注意を払う一方で，記述の仕方についてはまったく自由である」

次の例では主節が「不完全」なようであるが，「何をすればいいのだろうか」などが続くと考えられる：

(35) ***tódo en sintiéndo** la urjénsia de respondér a*
TODO EN feeling the emergency of to answer to

sus yamádas, de azér úna kóza, ma kuálo?
his calls of to do a thing but what

「彼の呼びかけに急いで答えなければ，何かしなければと感じながら（感じる一方で），でも，何を（すればいいのか）？」

これらの例を見ると，todo en 構文においては「現在分詞構文が表す事態と主節が表す事態が同時進行である」ことを表していると言えるが，現在分詞句と主節が表す事態が，互いに密接に関係・関連性のあることがらを対比・対照するように述べている，という点が特徴的であると思われる。(31) では「他の言語（もできる）」と「ユダヤ・スペイン語（を捨てない）」，(32) では「仕事」と「おしゃべり」，(33) では「他の言語の要素を取り入れる」と「依然として 15 世紀のスペイン語である」，(34) では書き手たちが示す二つの態度，(35) では「何かをすべき」と「何をしていいかわからない」など，二つの事態の意味的関係は密なものである。

単に「同時進行」している二つの事態を表すならば，先に見た二つの構文でも表すことができるが，それらと別に todo en 構文が使われるということは，やはり，他の構文にはない働き ——現在分詞句が表す事態と主節が表す事態を「対比・対照して際立たせる」働きがあると考え得る。

4.6. まとめ

todo en 構文については「同時進行的な二つの事態を対比して述べる表現」であると言える。

en 付き構文と en なし構文の違いについては，その表すことに着目すると，インフォーマントの二人が述べているように大きな差はないようだ。しかしここで，現在分詞となって現れる動詞の意味的特徴に着目してみると，次のようなことが傾向としてあることがわかる：

[i] en 付き構文では，「現在分詞句が表す事態の duration」≧「主節の表す事態の duration」であることが表され，「現在分詞句の表す事態のなかで主節の表す事態が実現する」ことを表すわけだが，その際，現在分詞として現れる動詞は，物理的であれ，心理的・精神的であれ，なんらかの「動作・行為・活動」を表す動詞が大部分を占めている。

[ii] en なし構文では，現在分詞となる動詞が，「なんらかの動作，行為，活動」を表す場合は，点的な事態を表し，現在分詞が表す事態と主節が表す事態の実現の順番が比較的はっきりする。しかし，現在分詞となる動詞が「(恒常的) 状態」を表すものである場合は，en 付き構文同様，「現在分詞句が表す事態の duration」≧「主節の表す事態の duration」であることが表され，「現在分詞句の表す事態のなかで主節の表す事態が実現する」ことを

表す。

[iii] このことから，en 付き構文と en なし構文の間に意味的な大きな相違はないが，どのような意味の動詞が現在分詞として現れるかにより，使い分けの「傾向」が少なくともあるのではないかと思われる。すなわち，「状態」を表すわけではない動詞が現在分詞の場合，en 付き構文ではその duration が表され，en なし構文では表されない。そもそも「(恒常的) 状態」を表す動詞が現在分詞の場合は，en なしでも duration が表される —— 換言すれば en は不要である，と言える。先に挙げた例を以下に再掲する：

(36＝8) ***en terminándo***, *kéro tornár a mis jenitóres.*
EN finishing I want to go back to my parents
「（この文章を書き）終えるにあたり，私は両親のところへ戻ろう（話を戻そう）と思う」

(37＝17) ***eskapándo de subír-las*** *la sigúnda kaléja*
finishing of to climb-them:Fem the second street
a la derécha es felék sokák.
to the right is *F.* street
「それら（「階段」を指す）を上り終わると，右側の 2 番目の通りはフェレク通りです」

どちらも「終える」という点的な意味を持つ動詞が現在分詞となっているが，(36=8) は en を伴い「終えつつある」ことを表し，(37=17) は en を伴わずに階段を登り終わった瞬間のことを表している。

5. 終りに

このように，en なし構文と en 付き構文の間には，「現在分詞となっている動詞がどのような意味的特徴を持つか」により使い分けが少なくとも「傾向」としてあると言えるようである。今後は未確認の用例の確認，また，用例を増やして，語順と意味の関係についての詳細な調査が必要である。

謝辞

科研のメンバーに加えてくださり，ユダヤ・スペイン語の現地調査を実現させてくださった当科研代表者の久保智之先生（九州大学），イスタンブルでの調査協力者探しにご尽力くださった林徹先生（東京大学），そして筆者の質問調査に協力してくださったイスタンブルの調査協力者の皆様，調査のための場所を提供してくださった *El Amaneser* および *Şalom* 編集部の皆様に，改めて心より感謝申し上げます。

参考文献

Perahya, Klara & al. 1997. *Diksyonariyo/Sözlük Judeo Espanyol-Türkçe, Türkçe-Judeo Espanyol.* (İstanbul : Gözlem)

吉田浩美 2006.「イスタンブルのユダヤ・スペイン語によるテキスト『40人の兄弟』」。『東京大学言語学論集』25. pp.317 - 393
（東京：東京大学人文社会系研究科・文学部　言語学研究室）

On the Present Participle Constructions of Judeo-Spanish spoken in Istanbul

YOSHIDA Hiromi
(Waseda University)

In the Judeo-Spanish spoken in Istanbul, there are three kinds of present participle construction. One is formed with the preposition *EN* followed by the present participle. Another is formed without *EN*, and the third one with *TODO EN* followed by the present participle. In this paper, semantic differences among the three constructions are discussed, based on the linguistic data obtained from one native speaker of this language. Roughly speaking, the first construction conveys the meaning that an event or action denoted by the main clause is taking place while another event or action denoted by the present participle phrase exists, while the second one is used when two events or actions, one being denoted by the main clause, and the other by the present participle phrase, take place in quite quick succession. The third construction conveys almost the same meaning as the first one, but in this construction, the two events are more strongly contrasted than in the first one.